

# 横断的学びと加点法による観点別評価で 多様性を認め何事にも挑戦する生徒を育成

## 安心して失敗できる 学校文化の醸成

2015年度、新たなプロジェクトをスタートさせた福岡県立香椎高校。それまでも伝統ある中堅進学校として3年連続入試倍率1位となるなど人気校であったが、着任したばかりの田中眞太郎校長は、そこに満足している校内の雰囲気は物足りないと感じたという。

田中校長はまずファックスで地域の中学校にアンケートを送り、同校への要望を調査。「成績上位層を伸ばしてほしい」「もっと部活動を盛んにしてほしい」などの声が挙がった。さらに新入生にがんばりたいことを聞くと1位が勉強。名だたる進学校が周辺にいくつもあるなかで香椎に入学する生徒は勉強よりも部活や行事に期待している。そう考えていた教員たちを驚かせる結果だった。

香椎らしさに新たな学力観を加え、「勉強をがんばりたい」というニーズに応えるにはどうすればよいか。「主体的な学び」を軸にさまざまな試行を重ねた結果、2017年度には「安心して失敗できる学校文化の醸成」というワードを加えることになった。「リーダーを育成するには、周りの同級生も素晴らしい存在でなければならぬ。その周りの同級生の育成が香椎の考える主体性。自分が先頭に立つ場合もあれば、自分は引いて他者を押し上げることも

ある。スーパースターがいなくても、チーム全体の能力を上げていけばよいと考えたのです(田中校長)

アドミッションポリシー(求める生徒像)は「多様性を認める心を持った生徒」と「何事にも挑戦する意欲を持った生徒」。香椎高校の新しいブランドデザインが完成した。

## ロードマップを作り 教育活動を俯瞰する

同校の考え方の基本は「すべての教育活動を主体的な学びの場」である。各教科で学んだことは、総合的な学習の時間や部活動、行事などで活用し探究学習とする。例えば修学旅行は現地(東京)集合。希望者が自由時間のツアーを企画・プレゼンしグループメンバーを集めるなど、主体性を育てる取り組みとなっている。こういった活動を有意義に行うため、各分掌の先生方が参加し同校のすべての教育活動を俯瞰できるロードマップ(図1)を作成した。教務や進路、学年行事、学校行事と並んで総合的な学習の時間(以下、総合学習)の流れもわかる。

総合学習のオリジナルプログラム(図2)を作った守谷敬人先生は、3年間学年主任を務め最初のクールを実践中だ。まず1学年で「自国文化理解プログラム」から入り、近隣の大学で学ぶ留学生に日本の文化を紹介する。「これは国際理解が目的ではなく、勉強したことが実際の役に立つ、誰かに

図1 3年間のロードマップ

ターム	学校・学年行事	教務	進路	生徒指導	総合的な学習	学年・学級	
1年生	4月	自転車運転免許証交付	学習習慣の定着 各教科の学習方法の指導	進路希望と文理選択の指針 課外の意識付け 適性に合わせた文理選択指導 外部模試	高校生活への適応 部活動加入へ向けた指導 挨拶・時間を守ることを徹底	学級開き・前期役員決め 新入生アンケート 二人面談 体験学習への準備 合唱コンクール準備	
	5月	歓迎遠足	PTA総会	文理選択の基本方針提示	...	...	
	6月	宿泊体験活動	生徒総会	...	...	...	
	7月	...	...	...	...	...	
	8月	夏休み	三者面談 夏期課外	外部模試 学習合宿	体育祭練習への 取り組み指導	英語版発表	面談：文理選択について、生活適応
	9月	2学期	体育祭	進路講演会	体育祭後の 切替え指導	...	...

行事や各分掌の役割、学年の動き、総合的な学習の時間など、学校で行うべきことすべてを縦にも横にも見られるマップ。これがあることによって、教育活動全般をより組織的、より段階的に遂行することができる。

喜んでもらえるという経験を生徒にさせるためのプログラムです。仕事とはこういうものではないかと体感してほしいだったので考え、いちばん最初にもってきました(守谷先生)。3学年で実施する「生き方に学ぶ」では、生徒全員が生き方に共感する人物についてレポートを書く。それを冊子にして配り、さ

図3 教科横断的指導資料例(ファッションデザイン科2年)

教科	地理歴史	数学	理科	保健体育	芸術	英語
4月	産業革命と日本	場合の数(数A)	科学技術の発展	思春期と健康	デッサンの基礎	コミュニケーション ファッショングラフィック
5月	アメリカ独立革命と 国民国家形成	確率(数A)	食品と衣料 再利用	妊娠と出産	幾何学構成	トラベルイングリッシュ (4~12月)
6月	フランス革命と ナポレオン	...	...	加齢と健康	人体クッキー	異文化理解
7月	ウィーン体制と 諸国民の春	...	...	保険制度・医療 制度	平面構成	...
8月	...	...	...	環境衛生・食品衛生	ポスター基礎	...
9月	ラテンアメリカ諸国の 独立	図形の性質(数A)	身近な天体と太陽系	医療品と健康・ 大気汚染	色彩学	...
10月	19世紀ヨーロッパ・ アメリカの文化と生活	...	自然景観と自然 災害	水質汚濁・土壌 汚染	絵画・芸術	...
11月	...	...	...	健康と職業生活	ポスター基礎	...
12月	東アジアの動揺・ 変革と日本	整数の性質(数A)	光の性質とその 利用	働くことと健康	哲学・生き方	...
1月	...	...	...	生物と光	ポスター作成	...
2月	...	...	...	これからの科学 技術と人間生活	ジャーナリズム	...
3月	...	...	...	...	...	...

図1のロードマップと同様、各教科が何をやっているのかがわかるように一覧表にした。これにより、教科間のコラボ(教科横断的指導)なども可能に。

図2 「総合的な学習の時間」8つのテーマ

学年(ターム)	内容
1	①「自国文化理解プログラム」 留学生との交流会に向けた日本文化紹介プレゼンテーション
	②「自己適性発見プログラム」 興味・関心に応じた体験プログラムとプレゼンテーション
	③「進路研究プログラム」 大学・短大・専門学校など学校、養成機関、試験研究
2	④「修学旅行に向けて」 国際理解、日本文化理解を深めるための実践
	⑤「生き方に学ぶ」 歴史や文化に影響を与えた人物の生き方に自分の将来像を重ねる
3	⑥「進路別探究活動」 進路分野別の固有のテーマについて、時事や論文を通じて分析する
	⑦「夢実現プログラムI」 面接、小論文、数的推理、英長文読解など、類型や進路に応じた活動
	⑧「夢実現プログラムII」 類型や進路に応じた活動

2015年度からの改革に合わせて、総合的な学習の時間も3年間を通したオリジナルプログラムを導入。近隣大学の留学生など積極的に外部人材の力を借りている。

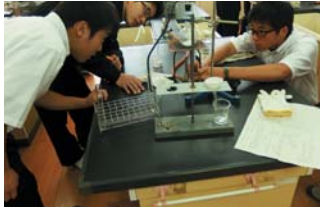
学校データ

1921年創立 / 普通科・ファッションデザイン科 / 生徒数1106人(男子410人・女子696人) / 進路状況(2017年3月実績) 大学進学227人、短大進学27人、専各進学70人、就職12人、その他20人

取材・文 / 永井ミカ



ファッションデザイン科のファッションイングリッシュの授業。興味のある分野の英語だけに生徒の学習意欲が高く、発言も多い。海外への修学旅行の準備も兼ねている。



化学の実験では課題だけ示し具体的にどう実験するかは生徒に任せる。安全確保のため理科の教員が3人入る。見渡してみる限り、参加していない生徒はいない。



ファッションデザイン科  
主任  
西島美加先生



3学年主任  
守谷敬人先生



教務部長  
松尾勝之先生



校長  
田中眞太郎先生

さまざまな生き方があることを知ってもらおうというものだ。同校のアドミッションポリシーの一つである「多様性を認める心を持った生徒」を育てることにつながる。これらの取り組みは進学ガイダンスや学年の単発の行事とは切り離し、3年間の流れで実践していく純粋なキャリア教育プログラム。「社会に出る準備として絶対に欠かせないもの」と守谷先生は言う。

そして、ロードマップと同様、横断的な効果を考えて作ったのが教科横断的指導資料(図3)である。これに基づき各教科が年間指導計画を作成。これがあれば、教科間コラボもやりやすくなる。例えば「色彩の授業をした上でファッションショーを開催しますが、その前に生物の先生に豚の目の解剖から色彩の見え方のメカニズムについて話していただきました」(西島美加先生)

服飾デザイン科から名称変更しSPH(スーパープロフェッショナルハイスクール)指定を受けたファッションデザイン科は海外で活躍できる人材の創出を

#### 図4 観点別評価を行う際の手順

- 1 各観点で何を評価すればよいのか、それぞれの観点ごとの目標(評価規準(のりじゅん))を定める
- 2 1のそれぞれの事柄についてどの程度実現できていけばよいのか(評価基準(もとじゅん))を定め評価する。評価方法は絶対評価(他の生徒の成績を考慮に入れず、生徒本人の成績(到達度)そのもので評価)とする。
- 3 評価するための資料(授業での発言・態度、ノート・ワークシートの記述、宿題、定期考査など)を定める。

例えば数学のルートの計算問題を評価する場合は【評価規準】が「ルートの計算ができるようになる」【評価基準】が

- 友人に聞かずに計算ができた(提出内容に工夫が見られる)→A
  - 友人に聞いたら計算ができた(期限内にノートを提出した)→B
  - 友人に聞いても計算ができなかった(提出したが空欄が多い)→C
- ※本項では基本的に授業に参加(提出)すればBで、AとCを評価する

- 4 一つひとつを評価し、各観点を総括して最終的な評価(総括的評価)を行う。

例えばExcelにA、B、Cを入力する。次にAを10点、Bを8点、Cを5点と規準に従い置換する。後は必要な項目で計算すると完成。

2つの“きじゅん”(規準と基準)を設け、評価を簡潔、明確にしている。基準はあるものの、そこに到達しなくても減点にはならず加点が低いだけとなる。

#### 生徒の多様な力を伸ばす実践ポイント

- ◎ 3年間のロードマップを作成し、各分掌、各行事など…それぞれが他の動きを把握し学校の教育活動全体を俯瞰する
- ◎ 学校行事、修学旅行などあらゆる場面で生徒自身が計画・実行
- ◎ 総合的な学習の時間を通して、学んだことが人の役に立つ経験をさせる
- ◎ 全教科・科目における観点別評価の完全実施(減点法から加点法へ)
- ◎ 生徒に授業アンケートを実施

#### 加点法による観点別評価で 社会の評価に近づける

そしてアドミッションポリシーの「一点」何事にも挑戦する意欲を持った生徒」はどのように育てていくか。答えの一つが全教科で導入した観点別評価だ。これまでのテストに100点を追加して200点満点とし、各教科で定めた基準に従って評価する(図4)。

「偏差値などとは違う観点で香椎の生徒はもつと評価できる…そもそも今回の改革の原点はそこにあります。学校の評価と社会の評価にズレを感じていたのです。ペーパーテストの点ばかりよくなくても、授業に積極的に参加し協働できる。そういう生徒をきちんと評価する。学校の評価を社会の評価に近づけるということです」(松尾先生)。

例えば数学の評価基準の中には、自主的に発表できる、積極的に協力している、見直すための工夫をしている、解答の流れを表現できるなどがある。主体的に授業に参加し、思考力、判断力、表現力を身につけ、深く学べて

いるかを見る。

基準を揃えるには同じ教科の教員たちのすり合わせに時間がかかるが、それがあつたために授業見学なども自然発生的に行われるようになった。同時に生徒が授業を評価する仕組みも取り入れるなど、さまざまな仕掛けで授業レベルを上げている。

「どんな取り組みを始めるにしろ、必ず香椎の生徒にとっていいことが、香椎らしいかというフィルターをかけ、学校全体で熟考しています。それが結果的にこれからの社会で必要とされる力を育成する取り組みと評価されるのだと思います」(田中校長)